

これまでに御提言いただいた事項(第 1・2 回)

1. 文化発信のための国内基盤の整備

(日本人自身が日本文化の良さを再認識)

- 世界の中の日本文化の位置付けの明確化
- 伝統文化がどこから出てきたかを整理し、現代の文化芸術への連続性を示す
- 日本文化の魅力を日本人自身が認識するためのしくみづくり

(人材の育成・活用)

- 国際的な場で文化に関する発言ができる人材の育成
- 国外で様々な交流活動の経験のある日本人のネットワーク化
- 大学での教養教育における文化芸術に関する内容の充実
- 日本語教育の専門家の育成

(文化拠点等の整備)

- 伝統工芸に関する拠点(常設展及び研究センター)の設置
- 「クリエイティブ・シティ」の形成

2. 日本文化の効果的発信

(発信するものとその創作等への支援)

- 本格的な海外展等がコンスタントに開催できるような仕組みづくり
- 世界的に人気のあるアニメ等の分野を足がかりとして、日本の伝統文化を発信
- 海外向けの国産映画製作への支援
- 海外発信を意識した作品の制作への支援

- (例)・海外作品への日本的な演出の付加
- ・古典芸能への現代的な演出の付加

- 日本人の異文化への理解力の宣伝
- 民間が中心となって推進する分野と伝統文化などの国の支援が求められる分野を区別
- 企業メセナの広がり, 市民の発信力の促進

(発信のしかた)

- 日本文化を発信するホームページ(英語版)の充実
- 海外の日本人学校の活用など発信拠点の開拓
- 世界的なフェスティバルの開催
- 日本の戯曲の海外での現地俳優による上演
- 海外の文化遺産の修復協力(及びそのための組織整備と専門家育成)と日本の貢献が分かるようなアピール
- アジアとそれ以外の地域との交流をコーディネートすることにより, 日本の存在感を発揮
- 情報の受け手のニーズを把握(相手の選び方の工夫)

(地域からの文化発信)

- 地域の中でトータル・アート・コーディネートできる人材の育成
- クリエイティブ・クラスを増やすための市民のアウトリーチ活動への支援

論点(案)

国際文化交流や日本文化の発信により, 我が国が世界から評価される国へと発展していくために, 文化庁として取り組むべき具体的な方策について御議論頂く。

1. 文化発信のための国内基盤の整備について

【前提】

文化発信の主体として, 個人が果たす役割については, これまであまり着目されてこなかった。国民1人1人が日本文化への理解を深め, 日本文化の発信主体(いわば日本文化広報大使)となることも必要である。

【論点】

- 日本人自身が日本文化の良さを再認識するための仕組みをどのように構築するか。
- 教育機関や文化施設などが, その仕組みの中で果たすべき役割は何か。

2. 日本文化の効果的発信について

【前提】

伝統文化から現代文化まで含めた日本文化の総体を効果的に発信していくためには、分野や相手国（地域）、発信の仕方などにつき、戦略を立てる必要がある。

【論点】

- 重点的に発信していくべき文化芸術の分野と対象地域はどこか。
- 各分野について、どのような方法で発信するのが効果的か。
- 地方の特色ある文化の発信を促進する方策はないか。